

2023年度 活動報告

I. 運営に関する事項

I. 総会の開催

第22回定時総会

2023年5月21日（日）13:00～ 小野川交流センター会議室

2022年度活動報告の承認を求める件

2022年度決算報告の承認を求める件

2023年度活動計画（案）の承認を求める件

2023年度活動予算案（案）の承認を求める件

2023年度役員（案）の承認を求める件

2. 理事会の開催

2023年4月23日（日）18:00～20:00

2022年度活動報告、収支状況についての報告

2023年度活動案、2023年度予算案、2023年役員案などについて協議

3. 合同委員会（むすびつくば運営協議会・理事会）の開催

【小委員会】

2023年6月24日（土）19:00～20:30

2024年度以降の運営形態について協議

2023年7月15日（土）19:00～20:30

つくば市不登校支援事業施設補助要綱の検討、新拠点候補物件協議

2023年8月28日（月）18:00～19:30

新拠点候補物件協議、臨時総会計画

2023年9月24日（日）18:00～20:00

新拠点候補物件協議、2024年度以降（短期・長期）の活動方針について協議

【合同委員会】

2023年11月5日（日）18:00～20:00

新拠点決定、2023年度後半、2024年度以降（短期・長期）の活動計画について協議

2024年1月27日（日）18:00～20:00

2024年度むすびつくばライズ学園の運営について協議

理事会・運営委員会のあり方について協議

Ⅱ. 事業に関する事項

Ⅰ. むすびつくばライズ学園運営事業

2023 年度目標と振り返り

- 公民協働のあり方について、リヴォルヴ学校教育研究所理事会とむすびつくば運営協議会とによる合同委員会において協議を続けるとともに、地域で活動する団体とも協働について具体的な話し合いを進め、2024 年度以降も確実に事業を継続できるようにする。

【振り返り】

- ・ 当法人理事やむすびつくばライズ学園運営委員とも頻回に協議を重ね、「新しい公共」の理念のもとに、ユニベルシタスつくばとの協働運営による新拠点を構えることができた。

- 体験的な学びの機会を充実させるとともに、一人ひとりに異なる学び（LD：Learning Differences）を尊重することで、子どもたちが自身を肯定的に受け入れ、前を向いて歩む意欲を育む。

【振り返り】

- ・ 学びプラネット合同会社と協働し、iPad を学びツールとして活用するなどして LD（Learning Disabilities：学習障害 / Differences：学び方の違い）にも配慮した支援に努めた。
- ・ 日本臨床発達心理士会茨城支部 および つくば子どもと教育相談センター の専門家からのアドバイスを得ながら、個別支援計画の作成に着手した。
- ・ 最初は好きな教科から短時間で、また、書くことが苦手な子には対話を通じて表現力を伸ばすなど得意の伸長に努めた結果、学びの意欲を回復し、苦手教科にも挑戦を始める姿が見られた。
- ・ 調理や手芸、理科教室や農業体験、型染め体験などのプログラムを実施した他、「地図と測量の科学館」に見学に出かけるなどした。

- むすびつくばライズ学園 ではコース制を廃して、希望によって週 3 日以上通所できるようにするとともに、新たに水曜の午後により少人数のクラスを開設し、多様なニーズに応じた学びと育ちの支援を図る。

【振り返り】

- ・ 2023 年度は「むすびつくばライズ学園」を週に 5 日、延べ 209 日開級。2024 年 3 月の時点で利用者数は 35 名、延べ登所者数は 1,532 名、1 日あたりの登所者数は、月火木金クラスが 8.0 名、水曜クラスが 3.6 名 となった。
- ・ 市内の中学校を中心に校内フリースクールが設置されたこともあると思われるが、もともと週 3 日以上の利用希望は少なく、実際には週 1 日の利用が多かった。
- ・ 水曜クラスは、大人数や大きな声や音が苦手な子も対象とを考えていたが、慣れるにしたがい活発になっていく子とあとから入ってきた子それぞれのニーズに対応することが難しかった。

- 協力団体とともに、保護者が互いの思いを語り合い、経験を共有し、交流を深める場としての親の会「親カフェ」を充実させるなど、保護者会活動の充実を図る。

【振り返り】

- ・ ピア・カウンセリングを兼ねた 親の会：親カフェ を つくば子どもと教育相談センター の協力で全 11 回開催し、述べ 76 名の参加があった。曜日を変えたり、拡大親カフェとして土日開催をしたりなど工夫の結果、前年度より参加人数が増え、より良い関係性が構築されていた。
- ・ 11 月には、保護者委員が中心となり、卒業生家庭との交流企画イベントを実現した。

《スタッフ一覧（2024年3月時点）》 ＊印は教員免許所持者

氏 名	経歴等	担当クラス
本山 裕子	元公立中学校教諭	数学 ＊
北村 直子	元公立中学校講師	国語 ＊
松井 由佳	筑波大学第二学群人間学類教育学主専攻卒業	社会 ＊
佐々木 侑紀	二松学舎大学 国際政治経済学部卒業	社会 ＊
小野村 哲	元公立中学校教諭	英語 ＊
梅澤 亜希子	元公立中学校講師	英語 ＊
八畑 博子	つくば市理科支援員	理科 ＊
平石 哲	デザイナー	絵画造形
谷島 弘恵	元放課後児童支援員	絵画造形
大嶋 愛子	元公立保育園保育士	サークルタイム ＊
早見 恵一	元会社員	フリースペース
中村 怜奈	筑波大学情報学群知識情報・図書館学類 4年	読み聞かせ
中山 奈穂	筑波大学人間学群教育学類 4年	フリースペース
原嶋 彩子	特別支援学校 非常勤	研修・ICT ＊
浅井 希乃華	筑波大学人間学群教育学類 2年	水曜クラス
椎名 千春	元会計事務所勤務	会計事務

《外部講師》

氏 名	所 属	担当クラス
河田 萌	NPO 法人 Next.one	スポーツ教室
川上 沙羅	NPO 法人ユアフィールドつくば	農業体験

2. 研修会事業

2023 年度目標と振り返り

- 他団体と協働し、子育て支援に取り組む人を主対象に、「ライズ学園」「むすびつくば」での実践から得た学びを共有する講座を企画し、開催する。

【振り返り】

- ・ 支援者を対象にした“こどものミカタ養成講座”の企画運営に参画した。
- ・ むすびつくばライズ学園のオープンスクールを全7回（対面5回、オンライン2回）開催し、延べ48名の参加者を得た。毎回、簡単なケース検討も取り入れ、双方向で参加者と学びあい、情報交換をする機会をもった。
- ・ 文部科学省初等中等教育局、東京都子供政策連携室、茨城県教育庁義務教育課、つくば市教育局から視察やインタビューを受け入れ、知見を共有した。

- 「英語の学び方・教え方」「疑似体験と指導の手立て」に関する情報を発信するとともに、児童生徒と支援者の両方に向けたオンライン講座を開催する。

【振り返り】

- ・ NHK ハートネット TV の番組作成に協力し、読み書き困難疑似体験コンテンツの一部を提供した。
- ・ スタッフや保護者向けに「読み書き困難の疑似体験と指導の手立て」についてオンラインと対面で講座を開催し、理解の広まりに努めた。
- ・ 英語の学び方・教え方について、支援者・子ども向けに、WEB 記事「単語力アップのポイント」などを情報発信した。オンライン講座の開催は来年度に見送った。

3. 学校・地域教育活動支援事業

2023 年度目標と振り返り

- 「ライズ学園」及び「むすびつくば」を巣立った中高校生を主な対象とした「放課後クラス」を開級し、くつろぎと語らいの場としてのフリースペース と、つながり、視野を広める機会としての特別講座を設ける。

【振り返り】

- ・ 放課後クラスでは、昨年度から引き続きのメンバーが定期的に通っていた。同じ時間にブックトークカフェを計9回開催するなどしたが、広がりは見られなかった。

- 科学や芸術、スポーツなど、一人ひとりの興味、関心にそった学びと体験の場、すべての子どもたちがその子なりの育ちを尊重される「サード・プレイス（第3の場）」のあり方を提案し、地域で学び合う機会を創出する。

【振り返り】

- ・ NPO 法人ユアフィールドつくば との協働により、土日に「それぞれの夢中に飛び込む ごきげん農業プログラム 2023」を4回開催し、43名の参加を得た。天候不良が重なり開催を延期した講座では、参加者が予定より大幅に減ったこともあった。

- 不登校が急増し続ける中で、校内フリースクール等における不登校児童生徒支援対策、部活動改革やオルタナティブ教育にまつわる動き、教育分野における官民の協働事例などについて情報を収集し、地域で学び合う機会を創出する。

【振り返り】

- ・ 「校内サードプレイスの可能性」として、校内居場所カフェの実践者などを講師・パネラーに迎え、イベントを行った。当日は対面オンラインを合わせて 60 名の参加があり、ともに学びを深めた。

4. 教材開発・教材販売事業

2023 年度目標と振り返り

- 「2024 年英単語カレンダー」と関連コンテンツを作成するとともに、「ひらがなれんしゅうちょう」を改訂、「小学生向け英単語カレンダー」のページサイト充実や発信に努める。

【振り返り】

- ・ 2024 年度英単語カレンダーおよび単語タイピングコンテンツを作成し、Amazon、TSUTAYA 等でも販売するとともに、生活クラブ東京、生活クラブ千葉、生活クラブ茨城、パルシステム茨城 栃木では、寄附付き商品として取り扱いいただいた。
- ・ 英語教材セットをつくば市のふるさと納税品として登録した。
- ・ 「2024 年英単語カレンダー」と「小学生向け英単語カレンダー」を統一した WEB サイトを作成し、英単語カレンダーシリーズとしてのコンテンツの充実と発信に努めた。
- ・ 「ひらがなれんしゅうちょう」の大幅改訂は見送り、微細改訂の再印刷にとどまった。

- 疑似体験、不規則動詞、英語ノート PDF 等 無料教材コンテンツの整理と配信に努める。

【振り返り】

- ・ むすびつくばライズ学園視察研修の方向けページに、無料教材コンテンツを整理し、情報提供を行った。

- 教材のホームページをリニューアルする。

【振り返り】

- ・ ホームページの常時 SSL 化（通信の暗号化、セキュリティ強化）を実施したり、情報や階層の整理、会員制サイトの構築調査など、リニューアルに向けての作業を進めた。

5. その他の活動

2023 年度目標と振り返り

- 定期的に活動成果を発信するなどして、新規会員の獲得に努めるとともに、情報発信の充実により、会員の継続率向上に努める。

【振り返り】

- ・ マンスリーサポーター会員が5名となった。
- ・ 2023 年度には WEB 記事を全 74 回 配信（6.16 回/月）し、定期的な情報発信に努めた。また、SNS やメール配信など、様々な層に情報が届くよう工夫した。
- ・ 毎月 11 日に実施されているイオン黄色いレシートキャンペーンは、当法人のボックスに投函されたレシートの総額の 1%、40,800 円を寄附いただくことができた。
- ・ 2 月から行った新拠点移転にかかる経費を募るためのクラウドファンディングでは、目標額とした 300 万円を超える金額を集めることができ、新しい方に法人の活動を知ってもらう機会にもなった。

【講演活動等】

- ・ 「筑波大学教育学類教育インターンシップ 基礎論」 登壇：小野村
- ・ オンライン講座 こども支援ナビ Meetup 第 17 回
「地域・学校と共に育む 不登校児童生徒の学びと育ち」 登壇：小野村
(イベントレポート)
https://childsupport-navi.com/news/events/202307_01/
- ・ SDGs TRY・B チーム主催「おやこの笑顔応援フェスタ」に出展
イオンモールつくば 小野村・北村・松井
- ・ 不登校・多様な学びネットワーク茨城主催「つながる縁日」に出展
桜総合体育館 北村・松井・大嶋
- ・ NPO 法人トモニトウ主催 とともに話す#7「子どもに伴走する大人たち」 ゲスト：北村



2024 年 5 月 19 日

- ・ 『子ども』のことを考える地域ミーティング
南九州大学都城キャンパス 基調講演：小野村

